

**平成26年度未来経営戦略推進経費
(教学改革推進のためのシステム構築・職員育成に係る取組み) 採択事業**

法人名 明治東洋医学院	学校名 明治国際医療大学
--------------------	---------------------

表題	教学改革PDCAサイクルの確立に基づく、職員能力向上の取組み
-----------	---------------------------------------

取組みの概略

【目的】

本学は、「鍼灸師」「柔道整復師」及び「看護師（保健師・助産師）」養成の医療系大学であり、入学希望者等は本学の国家試験合格率を注視している。

このような中、近年の入学生の学力不足等から、ステークホルダー等からの十分な評価を得られるだけの国家試験合格率が維持できない状況となり、抜本的な教学改革の必要性が生じてきた。

このような状況を鑑み、IRシステムを構築するため、平成25年9月に学長直轄の「教学IR委員会」を設置し、「学修実態・行動把握アンケート」等を行い、学生実態と教授内容とのミスマッチ等を検討してきた。また、新入生オリエンテーションにおいて「基礎学力試験」を実施し、支援が必要な学生には、「学修支援センター」にて学習指導を行ってきた。さらに、学内に分散している各種データの収集・調査・分析によりきめ細かな学修支援を実施し、国家試験合格率の向上を図り、カリキュラム改革や学修支援体制の見直しを検討するなど、いわゆる教学改革PDCAサイクルを確立させることとした。

【調査分析するデータの内容と活用方法】

(1) 調査項目

- ①高校時代の学修状況 ②入学試験の区分と成績 ③入学前教育の実施状況
- ④基礎学力試験の結果 ⑤在学時の学修状況（学籍異動等）
- ⑥国家試験関連科目の修得状況（GPA評価） ⑦授業出席状況
- ⑧国家試験（模擬試験）の各科目別の正答率 ⑨就職状況

(2) 調査方法

定期試験の成績と出席状況、在学時の学修状況（教務・科目担当者からデータ収集）、入学試験と高校時代の成績（入試課からデータ収集）、就職状況（キャリア支援からデータ収集）などをデータベースソフトに集積し、解析・分析する。

(3) システム開発と運用管理

国家試験と授業との関連性に関するデータから、授業ごとの学生の理解、修得状況が良くない分野を把握（可視化）し、科目担当者にフィードバックすることにより、各分野の理解度、修得状況の向上を図るシステムを構築する。また、併せて学修支援センターを介して、きめ細かな指導が行えるシステムを構築する。

(4) データベースの管理

上記、(1)(2)(3)のデータ管理は「教学IR委員会」が直轄し、部外者が利用・閲覧できないように取扱う。

(5) 活用方法

調査・分析の結果をもって、下記のとおり活用する。

①学生のタイプ毎の対応を把握し、勉学に対するモチベーションを維持させ、留年者・退学者の抑制につなげていくとともに、キャリア支援にも供していく。

②国家試験の出題領域ごとでプレースメントテスト等を行い、学生のレベルにあった対応を行う。

③「学修支援システム（学生ポートフォリオ）」をもって情報を一元化し、アドバイザー（担任）等から徹底した個別指導を行う。

上記①～③の取組み内容は、「教育課程検討委員会」「FD委員会」「自己点検実施委員会」等で検討を行い、学生満足度の向上に繋げる。また、「教学IR委員会」で全体を取り纏め、教学改革における学長の意思を支えるものとする。これら、教学IR活動の実績については、自己点検・評価の結果として学内外に公表していく。

【IR活動の実施・評価体制】

本学では、これまで「教育課程検討委員会」「FD委員会」及び「自己点検実施委員会」等をもって教学活動の点検・評価及びカリキュラム改編等を行ってきたが、教学改革を支えるものとして、平成25年9月に学長直轄の「教学IR委員会」を設置した。

教学IR委員会の委員構成としては、本学設置の3学部と医学教育研究センター（基礎教養部門、基礎医学部門及び臨床医学部門を統括する組織）及び事務部門との協働・連携が図れるよう、各部門から若手を中心に委員の選出を行っている。

なお、データ分析及び情報セキュリティ対策から、「医療情報ユニット」「大学事務局庶務課情報基盤担当」と連携しながら教学IR活動を行っている。

これらの取組みは、「管理運営会議」「教授会」及び「教員会議」等でも審議・報告し、全学的な評価を得ることとしている。

なお、当システムのPDCAサイクル（図1）並びに教学IRによる調査・分析から教学改革に至る相関図（図2）については、次のとおりである。

教学改革PDCAサイクル 図1

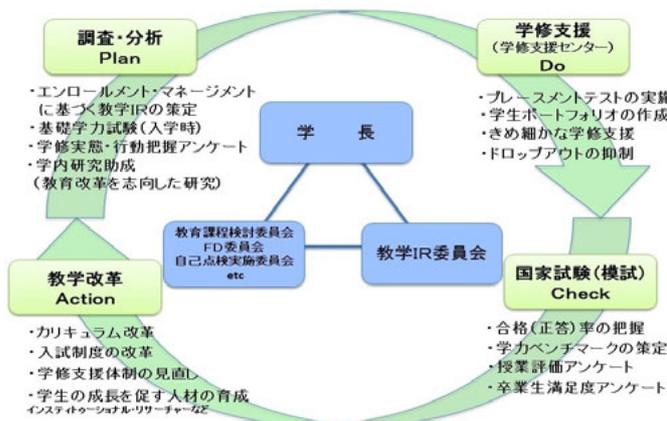
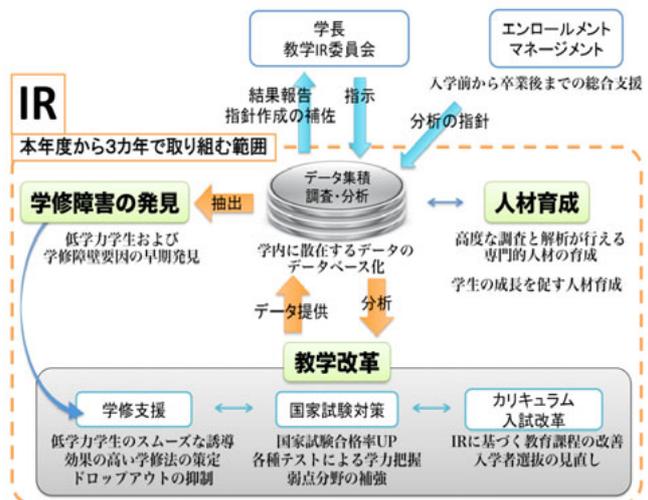


図2



【教学IRに資する職員能力向上の取組み】

(1) インスティテューショナル・リサーチャー等の育成

教学IR活動に取り組み「PDCAサイクル」を回し続けるには、収集した情報を多角的な視点から調査・分析し、学長の意思決定を支え、継続的な教学改革を推進していく必要がある。そのためには「インスティテューショナル・リサーチャー」等が有する高度な専門性が求められる。

このことから、3年次計画で職員の能力を向上させるため、初年度は、教学IR委員会の委員を主として、IRに関する学外研修会等に参加し、知識やスキルを身に付けるとともに、統計学等のレベルアップに努め、教学改革に寄与できる人材育成に積極的に努めていく。

2年目以降は、教学IR委員会以外の教員及び事務職員にも研修会等に積極的に参加させ、教学IRで得たデータを正確に分析でき、教学改革へ活かせる人材を数多く育成していく。更に、これらインスティテューショナル・リサーチャーを統括する「リサーチ・アドミニストレーター」を育成することで、より機動的で活発な教学IR活動へ発展させていく。

この外、学外研修会等を通じて、他大学等と教学IRに関する研修会や情報交換を積極的に行い、より効率的で客観的な情報把握・分析ができるように取組む。

一方、エンロールメント・マネジメントの観点から、卒業後を見据えたカリキュラム編成やキャリア支援を整備していく必要もあり、厚生労働省の認定資格である「キャリアカウンセラー (Career Development Adviser)」等を取得したスタッフによるカリキュラム・コーディネートやキャリア支援等が行える組織体制の充実を図っていく。更に、教職協働のワークショップ等を開催していくとともに、学生への指導・助言のためのファシリテーション能力の向上等にも努める。

(2) その他教学IR活動に必要な職員の育成

教学IRを進めていくには、個人情報にかかるセキュリティ対策が必要であり、従事者のセキュリティ教育も必要であることから、ハード的なセキュリティは大学事務局庶務課情報基盤担当で担当するが、IR従事者においても情報セキュリティ対策の認識・技能を高めさせる必要があるため、個人情報の漏えい対策等の学外研修会にも積極的に参加する。

更には、インスティテューショナル・リサーチャーとして、プレゼンテーション能力が求められることから、学外研修会への参加を始め、教学IR活動に関する実績報告会等を開催し、その成果を積極的に学内外に発表していく。